

物流トレンドワードから探る、2021年の物流

Transport
Insight トランスポート インサイト

物流グローバル情報

コロナ禍における運送業界の変化と予測

フラッシュ デリバリー

コロナ禍で急拡大してきた「個人宅への短時間配送(ドアtoドア配送)」。

地域と商品によっては、数分~1時間以内で配達可能な流通システム。今後、宅配に限らずフードデリバリーや買い物代行サービスなどの業種も追随すると考えられる。

非対面化・非接触化

コロナ禍においてドライバーが運行管理者と対面せずに点呼を実施。またお客さまとの直接接触回数が減少。

飛沫感染予防のため、事業所での対面点呼から「IT点呼」の導入がさらに進行。接触機会を減らすオペレーションや、“タブレット上での受け取りサインさえも不要”な取り組みが増加すると考えられる。

物流プラットフォーム

運送事業者、荷主企業、倉庫、店舗など物流に関わる拠点を情報でつなぐ基本ソフト。

API(アプリケーション・プログラミング・インターフェース)を通じて、各社がプラットフォームに接続し、物流の最適かつ効率化を図ることが可能。大手運送事業者では、発送やお届け状況のデータを他社と連携できるAPIを展開している。

RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)

人がパソコン上で行っていた作業を、代行・自動化してくれるロボットソフトウェア。

運送事業者の事務や管理系を中心に、定型業務(伝票整理・在庫管理など)の効率化が図れる。作業時間削減や生産性向上、人手不足をカバーできるとして導入が進んでいる。

物流DX

DXとはデジタル・トランスフォーメーションの略。デジタル技術を活用して、社会・企業の課題を解決すること。国土交通省では物流DXを「機械化やデジタル化による物流の変革」と定義。

運送業界では、ビッグデータやAI、5Gなどの先端技術を活用した隊列走行、自動走行、庫内作業の自動化がすでに登場。今後も、業界のデジタル化は一段と加速すると考えられる。

2021年の「物流トレンドワード」

Society 5.0

内閣府が提唱する未来社会のコンセプト。すべての人とモノがつながることでさまざまな知識や情報が共有され、経済発展と社会的課題の解決を両立する社会。

貨物や輸送機関がネットワークにつながり、物流をリアルタイムで追跡・管理することが可能に。さらに多様な顧客ニーズの発掘が進められ、既存の物流事業の枠を越えた新たな価値が創造されると考えられる。

2021年、コロナ禍で一層加速する物流現場の「デジタル化」

コロナ禍を筆頭に、世の中が大きく変わった2020年。「物量」が大きく変わり、取り扱う荷物によって明暗は分かれる結果になりました。特に輸出入が滞り海外からの荷物が大幅に減り、その影響で企業間輸送が激減。また消費者の将来への不安や給与減少によって“生活防衛”が始まり、車や住宅関連の物流停滞も見られました。

そして、2021年の物流業界にとってコロナ禍の影響は続くと考えられます。その中で「自動化」と、密を避けるための「非接触化」はさらに増えていくでしょう。例えば、玄関先に荷物を置

く、いわゆる“置き配”や個人宅へよりスピーディーに荷物を届けるフラッシュデリバリーの需要は伸びていくと考えられます。

また物流現場ではDX(デジタル・トランスフォーメーション)が一段と進行。これまでパソコンに向かって手作業で入力していた定型業務を手軽に自動化できるRPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)の普及や、AI(人工知能)の画像認識による入出荷検品の効率化なども当たり前の光景になるでしょう。新しく導入されるデジタル技術が、業務を一層効率的にしていきます。

「何が起るかわからない時代」、トレンドを読むチカラが重要

コロナ禍の影響をさらに広い視点で見ると、海外に依存した生産・調達のリスクが顕在化しました。それを回避するため、サプライチェーンの見直しが進むでしょう。今後、在庫量や製造拠点を海外から国内にシフトする企業も増えると考えられます。

またIoT※ですべての人とモノがつながり、今までにない新たな価値を生み出す「Society 5.0時代」に突入した今、物流倉庫の分野でも管理業務を担う物流オペレーションのロボット化が加速。作業員の負担軽減や省人化の観点から、自動化はこの先も

さらに増えていくでしょう。

今やこの先、何が起るかわからない時代です。しかし明日を予測し事前に準備しておくことで、時代の荒波に柔軟に対応することは可能です。また物流は、流通と切り離せません。流通の変化を読むことで、物流の変化を先読みすることができず。困難な時代だからこそ、潮流(トレンド)に敏感になることで、自社のチャンスをつかんでいきましょう。

※Internet of Things:あらゆるものがインターネットに接続されるという概念

角井 亮一 (かくいりょういち)

株式会社 イー・ロジック 代表取締役社長兼チーフコンサルタント。上智大学経済学部を3年で単位取得修了し、渡米。ゴールデンゲート大学からマーケティング専攻でMBA取得。2000年、株式会社 イー・ロジック設立。著書に「アマゾンと物流大戦争」「すごい物流戦略(日本語/ベトナム語)」などアマゾンや物流関連の書籍を多数出版。

